

■令和 7 年 1 月 7 日 定例記者会見内容

- 1 日 時 令和 7 年 1 月 7 日（火）11：00～11：50
- 2 場 所 市役所本庁舎 3 階 第 3 委員会室
- 3 出席者 ○市長、副市長、総務部長、企画部長、地域創生部長、危機管理監、
地域福祉課長、市長公室長
○酒田記者クラブ／各社
幹事社／河北新報・T U Y

■市長発表事項

1 復興に向けた地域ミーティングの開催結果の概要について（総務課）

市長／1 つ目が、復興に向けた地域ミーティングの開催結果の概要についてです。

昨年 7 月 25 日からの大雨による災害発生から 5 か月余りが経ちました。お亡くなりになられた方のご冥福を改めてお祈りするとともに、被災されました全ての方々に重ねてお見舞いを申し上げます。

これまで復旧・復興のため、力を尽くしてこられた被災者の皆様、それから、被災した方々を支援してくださっている皆様に、心から敬意と感謝の意を表します。

さて前回の記者会見では、「復旧・復興方針（案）」をお示しいたしましたが、その案を基にこれまで 4 回にわたって、それぞれの被災地域に入りまして、地域ミーティングを開催いたしました。本日はその結果の概要を発表させていただきます。

資料の 2 ページから 5 ページにそれぞれの開催結果の概要を掲載しております。詳細につきましては資料をご確認いただければと思いますけれども、主な意見・要望を整理いたしますと、例えば荒瀬川の拡幅工事及び日向川の改修工事の内容等について、それから竹田排水機場のポンプの機能強化について、そして農地に係る公共災害復旧事業の受益者分担金の考え方について、防災無線や防災ラジオによる情報伝達のあり方について、そしてハザードマップの見直しについて、災害時要援護者支援制度のあり方について、生活再建がいつになるか見通せず不安であるということについて、一人暮らしの高齢者における仮住まい等への支援のあり方について、市外、例えば庄内町などに仮住まいされている方への手当についてなどのご意見、ご要望が出されました。いただきましたご意見、ご要望については、酒田市単独で対応可能なものに関しましては早急に対応いたします。

一方で、市単独では対応できず、国・県等との関係機関と調整が必要なものもございますので、それに関しましては、まずは被災者の皆様の思いを受けとめて、その上で、国・県に対して要望したり、場合によっては、国・県と被災した皆様、双方の合意点が見いだせますように酒田市が汗をかいていきたいと思っております。

特に「防災無線等による情報伝達のあり方」や「ハザードマップの見直し」などにつきましては、復旧・復興方針（案）の基本方針 4 に掲げている通り、しっかりと今回の災害対応の状況を検証して、今後の防災減災対策を強化していきたいと考えております。

先ほど冒頭で申しましたとおり、これまで 4 回にわたって、それぞれの被災地域に入り

ましたが、やはり行政側だけでは気づかない部分が少なからずありました。被災地域の皆様の声や思いを改めて認識することができまして、本当に地域ミーティングを開催してよかったと感じております。

この後、今月の 20 日には、平田地域で地域ミーティングを開催いたします。

また、現在広く市民の皆様からご意見を募る、パブリックコメントも行っておりまして、今月末までの受け付けとなっております。

一通り地域ミーティングを終えましたら、市議会を含め、それぞれから出されたご意見等を踏まえ、最終的な「復旧・復興方針」を策定していきたいと考えております。

2 酒田の花火開催日程変更について（交流観光課）

市長／2 つ目の発表事項ですけれども、酒田の花火開催日程変更についてであります。

令和 7 年度及び令和 8 年度の酒田の花火開催日程について、9 月第 2 土曜日に開催日を変更する予定でございます。

昨年 8 月 3 日に予定しておりました、今年度の酒田の花火は 7 月 25 日からの大雨災害、そして最上川の増水の影響で中止をいたしましたが、今回も含めて、過去 7 年間で 4 回、梅雨末期の大雨により最上川が増水しております。河川敷の浸水により、会場準備ができずに大会中止となることや、設営機材が流出することなど、8 月第 1 土曜日の開催は中止リスクが高い状況となっております。

こうした状況を踏まえて、酒田の花火実行委員会では、今後の酒田の花火をどのように開催していくか協議をして参りました。その結果、開催日程を 8 月第 1 土曜日から別の日程に変更していくという方向で判断したところです。

具体的には、河川増水のリスクが高い時期や、熱中症リスクの高い酷暑の時期を避け、可能な限り安全に開催ができる日程として、当面の 2 年間は、9 月第 2 土曜日に、場所は最上川河川敷で開催する方針で準備を進めて参ります。

令和 9 年度以降の開催につきましては、酒田の花火実行委員会で引き続き検討して参ります。私からは以上です。

■市長発表事項に関する質問

1 復興に向けた地域ミーティングの開催結果の概要について

記者／配布資料の方に、令和 6 年 9 月 20 日からの大雨による状況について、終報と書いてあるのですけれども、9 月 20 日からのものに関してはこれをもって終わりということでしょうか。

市長／そのようになります。

記者／7 月 25 日からの大雨による状況については引き続き行っていくということでしょうか。

市長／そのとおりです。

市長公室長／大変失礼いたしました。配布資料の方の補足説明が抜けておりました。

今ご質問があった通り、7月25日からの分と、9月20日からの分の2つの状況についても、配布させていただいておりますのでよろしくお願いいたします。

記者／何点か確認させていただきたいのですけれども、今「復旧・復興方針（案）」の段階だと思うのですが、この最終形というのは、2月上旬ぐらいにまとめられるという認識でよろしかったでしょうか。

市長／そのとおりです。

記者／それから先ほど市長のお話の中にもありました、ハザードマップの見直しについて確認をさせていただきたいのですけれども、今回のこの地域ミーティングでも、複数そういったお話があったということなのですが、実際に今回の災害で浸水したエリアと、今のハザードマップとを照らし合わせたときに、市の方でどういうご見解を持っていられちゃって、どの川を対象に見直しを行う必要があるのか、現在のご認識などをお聞きできればと思います。

市長／現在のハザードマップと、今回の大雨で実際に浸水があったところを照らし合わせますと、違う地域もあったと理解をしております。それにつきまして、当然今後、ハザードマップの見直しも必要だと思いますが、それを待っていると、またいつ災害が起きるかわからないということで、ハザードマップではないのですけれども、名称は違うようにして、混乱しないようにしたいと思いますが、今回の大雨災害を基に危険浸水区域を示すことができないか、今考えているところであります。

記者／そうすると、イメージ的には今回浸水したエリアを見える化して、ホームページか何かでお知らせするというのでしょうか。

危機管理監／明確なイメージはお示しすることはできませんが、概ねそれに近いものかなと考えております。

記者／もう1つ、これも今回の意見の中にあっただと思いますが、今後の生活への不安を感じていらっしゃる方に関して、仮住まいの方々は入居期間が最長2年ということですが、高齢化が進んで、その方々がこの先、自分で再建ができないとなったときに、どこに住むかというのを考えていくことも、復興という意味では大事なのかなと思うのですが、その辺りについての市民の意見と市長のお考えをお聞かせいただけますでしょうか。

市長／一番大事なところだと思っておりますので、2年間の間に丁寧にご意見を聞きたいと思っております。現在、健康福祉部の方で、被災者支援センターと一緒に、仮住まいをされている方を中心に訪問しております。それは1回で済むことではなくて、必要な方にはこれから何度もヒアリングや訪問活動を行って、全ての方の目途が立ちますようにこれからも継続して支援をしていきたいと思っております。

記者／戸沢村だと、防災集団移転の話が出たということで、それはなかなかハードルが高い部分もあるかもしれないのですが、そういう集団移転とか、例えば災害公営住宅の建設についてどんなふうに考えていらっしゃいますか。

市長／私もいくつか地域ミーティングに出ていますけれども、また、出ていないところは全て報告を受けていますけれども、特別そういった意見は聞こえてこなかったというふう

に理解しておりますので、個別に相談を受けていきたいと思っております。

2 酒田の花火開催日程変更について

記者／花火の関係でお尋ねしたかったのですけれども、9月の第2土曜日に移動するという話は、結構前から出ている話なのではないでしょうか。実行委員会の中でも検討が重ねられてきてというお話でしょうか。

市長／実行委員会の中で、その方向性でということを決めたということでございます。

記者／以前から移動したほうが良いというお話はあったのでしょうか。

市長／日程に限らず、一番の問題意識は、最初に申し上げましたとおり、過去7年間で4回も大雨の影響があったということです。コロナでもともと中止の予定であった年もありましたけれども、過去7年間で4回、あるいは過去3年間で2回中止になっています。令和4年度と6年度が中止となっており、やはりこれは気候変動の影響だろうということで、今後の酒田の花火を無事に開催できるようにするにはどうしたらいいかという観点で検討してきた中で、その解決策の1つが、まず日程を変更してはどうかということです。

記者／この9月の第2土曜日というのは、どういったことで決まったのでしょうか。

市長／はい。1つ目は、梅雨が長くなって、8月上旬まで影響があるということで、大雨が降る梅雨末期の開催を避けるということ。

2つ目は、県内外のイベントと同日開催になってしまいますと、バスの確保が困難になる。あるいは機材調達が困難になったり、価格が高騰したりして、予算オーバーになってしまうということもありますので、可能な限り近隣の大規模なイベントとの同日開催は避ける。

3つ目は、8月開催の場合、気温が高くて熱中症リスクの高いので、8月ではないほうが良いのではないかとということから9月開催にいたしました。

記者／直近の3年だと、9月の第2土曜日の天候はどうだったか分かりますでしょうか。

地域創生部長／一昨年、2023年の9月の第2土曜日は晴れ。その前日も曇りのち一時雨という状況でございますが、大きな雨は降っていない。2022年の第2土曜日、9月10日になりますが、そちらも当日は晴れ。その前日が曇り及び曇り一時雨というレベル。それから2021年、2020年の9月第2土曜日についても概ね過去2年間と同じような状況でございますので、そのこともあって、9月第2土曜日というのが候補に挙がってきたというところでございます。

記者／過去3年では2回中止ということですが、過去7年ではコロナでの中止も含まれているので、大雨の影響では中止にはならなかったということなのですか。

市長／平成30年度からの7年なのですが、平成30年度は花火が開催できたのですが、そのあと大雨が降りまして、大会の翌々日に仮設トイレなどの機材が流されてしまったということがございました。それも大雨の影響かなと思っております。

記者／開催はしたのですか。

市長／開催はしました。大会の翌々日にトイレが流されてしまったということで、そうい

う意味で大きな被害があったというようなことがございました。また、令和2年度は、もとコロナで中止だったのですが、予定日が大雨だったので、先ほどのような表現になりました。

記者／もし分かれば教えて欲しいのですが、例えば、10年前、20年前というのは、この時期で中止になるということはほぼなかったという感じでしょうか。近年の気象変動で、この傾向が顕著になったという、昔はこんなに中止になることはなかったという、何か資料がありますでしょうか。

市長／私、酒田に来て25年ですけれども、ここ数年頻発しているという印象があります。

記者／近年の大雨の被害で、最上川の河川敷も相当整備が必要な状態が毎年続くと思うのですけれども、そういった意味で、今後、市の施設としての最上川の河川敷のあり方を教えていただければと思います。

市長／河川敷自体は国土交通省の管理ですけれども、このたびの日程を変えるという案と、場所を変えてはどうかという案もあったわけです。とにかく目的は無事に開催できること。中止にならずに無事に準備を整えて、開催できること。そのためにできることは何かという検討をしましたので、場所を変えてはどうかということもあったのですが、場所を変えるにあたっては、やはり来年度は間に合わない。安全に打ち上げができるかどうか、観客の避難計画から考えなければいけませんので、1、2年では間に合わないということで、まずできることとして日程を変えることを検討したところであります。

記者／他に候補地が挙がったりしたものなのでしょうか。

市長／場所を変えるという場合には、今後の検討なのですけれども、去年の10月に酒田北港で打ち上げをしました。そういったところが1つの候補地になるのではないかなというふうには考えております。

記者／気候変動も年々変わってきておりますけれども、その辺も加味して今後柔軟に対応していくというようなことなのでしょうか。

市長／そうですね。市民もまた観光客の皆さんも予約してくださっている花火ですから、まず確実に開催できるにはどうしたらいいかということを引き続き検討するとともに、令和9年度以降の方針についても検討して参ります。

記者／当面は9月に変更するということですが、9月第2土曜日にうまく開催できるようであれば今後もその日程にするのか、あるいは、9月に上手く開催できるかどうかは関係なく、例えばゴールデンウィークですとか、場所の変更ですとか、そういうことを考えていくのでしょうか。

市長／9月開催の状況を見た上で、それも1つの資料とした上で、そのままでいいのか、それともまた違ったほうがいいのかということを考えていきたいと思っております。

記者／まず、9月上旬の開催がうまくいったら、それが第一候補になるということでしょうか。

市長／そうですね。はい。

地域創生部長／令和7年、令和8年は9月の第2土曜日ということで決めさせていただき

ました。今、令和7年の花火の状況について発表をさせていただいておりますけれども、ツアー造成ですとか観光客を迎える上では、この時期での情報発表がギリギリでございます。基本的には、1年前には全ての情報を出すというのがこの業界の一定のルールでございますので、令和7年の状況は一旦見させていただきますが、その後すぐに、令和9年度以降のものを決めなければならないという状況になってございます。参考まででございますけれども、酒田の花火の最初の開催は、昭和4年でございます。酒田港が第二種重要港湾に指定されたことを記念して打ち上げたのが第1回という形になりますので、令和11年で100年目を迎えます。ということもありますので、第一候補は令和7年の打ち上げの状況を踏まえながら、なるべく早急に決めていきたいと考えてございます。

記者／もう一度確認したいのですけれども、昭和4年に第1回、令和11年で100年目です。よろしかったですか。

地域創生部長／西暦で言いますと1929年が1回目でございます。途中、戦争等があったり、中止になったりもしましたので、100回目ではないのですが、令和11(2029)年で100年目という形で考えてございます。

記者／ちなみに去年中止になっての損失というのは、今現在出ていますか。

地域創生部長／花火の実行委員会として損害保険に入っておりますので、花火の決算上は、損害はゼロという形になります。

■代表質問

1 年頭に当たっての所感について

記者／年頭に当たっての所感をお聞かせいただきたいと思います。よろしくお願いします。

市長／まずは、今年は、昨年7月の大雨災害からの復旧・復興ということで、先ほどご質問がありましたが、ハード面の工事も進んで参りますが、被災した方々は本当に、これからどうなるのだろうと心配をされていると思いますから、常にそういった方々のお声を聞きながら、全ての市民が安心して暮らせるように物事を進めていくことが大事であります。その上で、職員向けのお話でも申し上げたように、人口減少が進んでおりますからそれをできる限り抑制しながら、復旧・復興も含めて、安心・安全に暮らせるまちにしていこうということを改めて強く感じているところです。人口減少を抑制するためには、産業の振興あるいは所得向上が必要ですが、そのための動きとしまして、昨年指定されました基地港湾の工事、それから今年もクルーズ船が、外航クルーズ船だけで8回決まっております。そういったことによります、酒田港を中心とした経済の活性化。2つ目としては3月末にいろは蔵パークが完成いたしますので、観光消費額がこれまで以上に増えること。それから3つ目に、令和8年4月に予定されております公益文科大の公立化によりまして、若い人たちが酒田に定着すること。そのことを期待しているところであります。その上で安心・安全な暮らしということでは、繰り返しになりますが昨年7月の大雨災害からの復旧・復興を進めていくこと。2つ目には、川南地区の小中学校の再編も、これは今年進めなければならないことです。3つ目には、令和8年4月に、公益大の公立化と同じ時期に

予定されております水道の水平統合の準備もございます。これらは全く事例にすぎませんが、市民の皆さんが安心・安全に暮らすことができますように、令和の時代に合った形にこの酒田を作り変えていくという作業を 1 つ 1 つ進めていきたいと思っております。

2 9 日告示の県知事選について庄内の課題を踏まえ新知事への期待は

記者／9 日告示の県知事選について、庄内の課題を踏まえ、新知事への期待をお聞かせください。

市長／今申し上げた、酒田市の方向性ですね、こういったことに期待すると申し上げましたけれども、これらの多くは県のご支援が必要です。県と一緒にこれまで進めてきたこと、あるいはこれから進めていくことが多いですので、新たに知事に就任される方とは、今申し上げた酒田港のことですとか、公益大の公立化、災害からの復旧・復興、それから水道の水平統合は私たち市町村ですけれども、そのあと垂直統合もぜひと思っておりますから、県と引き続き連携協力をして、庄内・酒田の発展を実現していければ嬉しいなと思っております。

3 市消防団（水防団）員及びパトロールに当たる市職員へのライフジャケット配備の状況について

記者／豪雨災害に関連する質問だと思うのですが、市消防団（水防団）員及びパトロールにあたる市職員へのライフジャケット配備の状況についてお聞かせください。

市長／昨年 7 月 25 日からの大雨による災害、繰り返しになりますけれども、本市の消防団員が延べ 886 人、現場へ出動いたしまして、昼夜を問わず、排水作業、それから土嚢積作業、住民の避難誘導、河川の巡視、不明者の搜索等に従事していただきました。令和 6 年度当初において、本市消防団員 1,569 人に対して、救命胴衣はわずか 123 着しか配備できていない状況で大変、心苦しく思っております。今回の大雨では、皆さんご存じのとおり、住民の救助に向かった山形県警新庄署員 2 人が殉職されました。今後も気候変動による短期集中的な大雨の頻発、さらに本市では大規模地震による、津波災害も懸念されますことから、そういった水害時に現場へ出動する可能性のある全ての消防団員に、できるだけ早く救命胴衣を配備したいと考えております。予算の状況もございますので、国庫補助などを活用しながら、できるだけ早く、すべての消防団員に配備をしたいと考えております。

4 旧マリーナ 5 清水屋の再開発について市としての関わり方は

記者／清水屋の再開発について、市としての関わり方についてのお考えをお聞かせください。

市長／旧清水屋のことですけれども、酒田商工会議所会頭が会長を務めます、旧清水屋エリアを核とした中心市街地再生協議会から、破産管財人に対して、民間主導の再開発計画

を提案する意向が示されたと伺っております。破産管財人においては、民間主導の再開発計画の中身を精査した上で、裁判所と協議をして、不動産放棄の猶予を判断したいと考えていると伺っております。不動産が放棄されることで所有者のいない大規模な建物が、中町にあのまにされることは本当に望ましくないと考えておりましたので、そのような動きは良かったかと、少しほっとしているところであります。

今後についてですけれども、まずはその民間主導の再開発計画の実現に向けて、地権者の方と、購入希望企業の間で交渉が前進することを大いに期待しております。また酒田市に対しましても、同協議会から旧マリーン5 清水屋を含めた中町エリアにおける「中町グランドデザイン（案）」が示されております。この「中町グランドデザイン（案）」を参考にしながら、市役所内部でも、旧マリーン5 清水屋を含めた中町全体のエリアが、街としてどのようにあるべきかを、あらゆる角度から現在検討しているところであります。

ここからは私の考えなのですが、このたび「いろは蔵パーク」ができますので、そこと、お客様を奪い合うようなことがなく、むしろ相乗効果が出るような形で、中町エリアを位置づけできないかというふうに考えております。いろは蔵パークは商業施設ですが、中町を考えてみますと、市役所があり、商工会議所があり、金融機関がございます。公共的な機関、あるいは民間企業もありますので、利用者の目線で、利用者の利便性、中町に来ればワンストップで用が足せるというような形にできるだけできないかなと。そういう形で、公共的な機関、あるいは民間企業の集積をしていって、昼間の人口が増えるようなことを方針として打ち出せないか。それから2つ目が夜間人口ですが、災害もありまして、この中町のエリアが一番安全だということが、市民の間でも理解されているようであります。ですので、安心・安全、災害ができるだけないところに住みたい、あるいは車がなくても中心市街地なら住めるのではないかとということで、車がなくても生活できるようところに住みたいという方が一定程度いらっしゃると思いますので、そういう方たちが住めるような、居住環境・居住誘導で夜間人口も増える。そのような形で、昼間人口・夜間人口を増やしていけないかという方針を出せないかということです。行うのは民間事業者ですので、酒田市が何かするというわけではないのですが、酒田市としては、大事な中心市街地の方針を一定程度出していく必要があると思っております。今市役所で議論しています。

■代表質問に関連した質問

1 市消防団（水防団）員及びパトロールに当たる市職員へのライフジャケット配備の状況について

記者／ライフジャケットの配備についてなのですが、昨年の大雨の前の時点で1,569人に対して123着しか配備できていなかったというお話でしたが、その後増えてはいるのでしょうか。現在も123着ですか。

危機管理課長／今年度につきましては予算もございませんでしたので、来年度以降の整備ということで123着のままでございます。

記者／123 着はどこを中心に配備されているかというのはありますか。海沿いのみですか。

危機管理課長／はっきりとした資料を持ち合わせていないのですが、水防の川の近くの団を中心に配備されているはずです。

記者／今後の措置になるということでございますが、新年度予算に盛り込まれる予定はありますか。全部は無理だとしても、例えば100着とか200着ですとか、何か年計画で全部に行き渡るぐらいなのかとか、その辺の大体の見通しが分かれば教えてください。もう一点、水防団以外にも、道路などの現場確認のために出動される職員の方もいらっしゃるのではないかと思いますので、そちらの方の配備状況はいかがでしょうか。

市長／まず1つ目ですけれども、まだこれからなので全体を見ないと確定的なことは言えないわけですけれども、気持ちとしては、もちろん令和7年度から少しずつ、何か年かかけて配備したいと考えております。

危機管理監／基本、道路の点検については消防団のみならず、市役所の職員も行くわけですよね。そこは大変申し訳ないのですが、その部署の方で検討していただくという形になります。ただご指摘のとおり、全団員に配布すれば、より危険なところにも行けますので、消防団の運用の範囲、あと任務の多様性、これについては意義があると考えております。以上です。

記者／一応確認なのですけれども、災害時のパトロール等に当たる職員っていうのは、これまで想定されていなかったということではよろしかったでしょうか。

危機管理監／想定はしています。ただ内水氾濫で人が沈むというところまでは想定してないです。

記者／そちらについての措置は、今後検討される余地はあるのでしょうか。すでに竹田地区等で、救助ボートで引っ張って救助ということも結構あったと思いますが。

危機管理監／消防団の任務をどう律すかによろしいと思います。

記者／消防団の方は徐々にということですが、道路を含め、災害時にパトロールに当たるような担当職員というのは、これまで想定されていなく、配備されていない。今後もそれぞれの部署で検討ということではよろしかったでしょうか。

市長／目的は、要するに災害救助、特に水害が起きた中で、命をかけて作業する、命を守るということですので、消防団員以外にそういった職員がいるのかどうかを確認した上で必要であれば、消防団と同じような基準で、危険度に応じて配備するのは当然のことだと思っております。まずは、庁内で確認したいと思っております。

記者／関連なのですけれども、今配備されているようなライフジャケットは、おいくらくらいするものなのでしょうか。

市長公室長／後ほど確認させていただきますのでよろしくお願いいたします。

2 大雨災害による市施策への影響について

記者／年頭所感に関連して、今年度大雨の影響で、いろいろと施策の遅れがあったりです

とか、影響が出たところが多かったと思うのですが、具体的に今年度のうちに予定していたけれど、できなかったものや来年度以降に持ち越しになりそうだというようなものがあれば教えてください。

総務部長／今リストがないのですが、基本的に住宅を復興・復旧させるために、建築課の職員はそちらに全部業務をシフトした関係で、予定していた建築関係の工事について、来年度に送ったものがあります。

記者／建築関係が多いですか。

総務部長／予算的にできなかった、持ち越したというのは、建築関係が多かったと思います。

記者／分かりました。

■フリー質問

1 市内中学生の自死事案について

記者／酒田市立中学校女子生徒が自殺してから、来月、命日が来て4年になるのですけれども、再調査委員会の状況を教えてくださいませんか。

総務部長／ホームページ等で公開をさせていただいてございますけれども、10月に報告書の案をご遺族の方にまずご説明をさせていただいた。その後、再調査委員会に対して、意見書が提出されたので、報告書の内容を見直すかどうかの検討作業、あとは公表版をどういうふうにするかということで、今議論が最終段階でございます。申し上げたとおり、最終的に記者会見ができるのが2月以降になるということで鋭意進めているところでございます。全国から調査委員会の委員を引き受けていただいている関係で、日程調整をして、集中的にやるということが難しいこともありますし、ボリュームがあって製作に時間を要しているということでもありますので、2月以降に具体的にお示しできることになるだろうと考えてございます。

記者／今部長がおっしゃっていた意見書というのは、文科省の重大事態ガイドラインのいわゆる所見ということでよろしいでしょうか。

総務部長／はい。今回の場合は、再調査委員会に対してということで、意見をお伺いしたということです。